

看護師の心構え学ぶ

血圧測定／車椅子移動／清拭

高校生、西胆振の病院で体験

西胆振の総合病院では、本年度も高校生を対象にした「看護体験」を開いている。高校生にとっては、憧れの白衣に身を包むだけでなく、業務の体験を通じて、進路を考える貴重な機会にもなっている。23日に開かれた製鉄記念室蘭病院（松木高雪院長）の「ふれあい看護体験」をのぞいた。

（石川綾子）



生後3日目の赤ちゃんを抱く高校生

今年、西胆振の8校から15人が参加。白衣に身を包んだ高校生は、さすがに緊張した面持ちだ。委嘱状交付式を終えると、産婦人科や循環器科、整形外科などの病棟に赴き、血圧測定や車椅子移動のほか、清拭などの業務も体験。同時に看護師の心を学んでいた。

病棟では、看護師のアドバイスを受けながら、患者さんの状態をチェックする高校生たち。中には、患者さんと積極的にコミュニケーションを取る高校生



車椅子を押し患者を移動させる高校生

もいるなど、早くも看護師らしい振る舞いも見せていた。

登別明日中等教育学校の石川桃子さん（6年生）「高校3年生に相当」は、「祖父が入院している時、看護師さんが優しく接してくれる姿を見て、私もこうなりたいと思いました」と、看護師を志す理由を話す。

この日の体験では、「患者さんに『頑張っ看護体験になったね』と言われて、とてもうれしかった」と笑顔を見せ、「まずは、看護学校に入れるように受験勉強に励みたい」と決意を新たにしている。

た。

また、室蘭栄の深澤真奈さん（2年）は、「仕事をこなす看護師さんの姿が、とても格好良かった」と目を輝かせ、「足浴や洗髪を体験させてくれた患者さんから、『ありがとう』と言われました。」

これが、看護師さんのやりがいなのか、とも感じました。高校生たちは、看護師の心構えなどを肌で感じていた様子だった。

同様の看護体験は毎年、市立室蘭総合病院や日鋼記念病院などで実施。看護師を志す高校生たちの、最初の実習ともなっている。